

今井町居住者の生活スタイルと住環境整備意識

奈良女大・院 ○牧野 唯, 今井範子

【目的】奈良県橿原市今井町を対象とし、住宅内および地域内・地域外での居住者の生活行動からみた生活スタイルを明らかにし、生活スタイルと住環境整備意識との関係を分析することによって、住環境整備に資する知見を得ることが目的である。

【方法】保存地区内の全世帯を対象とし留置法自記式による質問紙調査を実施。調査時期は1997年4月下旬～5月上旬。有効サンプル数329票。18才以上の居住者に個人票を配布し、712票を得た。本報告は個人票の分析に基づく。調査内容は、日常生活・余暇の過ごし方・地域活動に関わる19項目の生活行動、生活関連施設の要求、空き家の利用、等である。

【結果】1) 性別にみると、男性は地域関連の生活行動や一人で過ごす生活スタイルが多く、女性は地域内にとどまらず活動的で、家族や近隣との交流に積極的である。居住来歴別では、今井町から転出経験のある帰郷者は地域外の余暇活動が活発である等の特徴がみられた。2) 生活行動を数量化Ⅲ類を用いて分析したところ、〈活動単位の志向性〉と〈活動拠点〉の2軸が得られた。クラスター分析の結果、居住者はタイプⅠ(個人志向・地域生活消極型)、タイプⅡ(個人志向・地域生活積極型)、タイプⅢ(近隣志向・地域生活積極型)、タイプⅣ(家族志向・地域生活消極型)の4タイプに類型化された。3) タイプⅠの高齢層は町内に「デイサービス」や「家事支援」等の施設を、タイプⅣは「子どもの遊び場、公園」の整備を求めている。タイプⅠは町内の空き家を「老人の介護支援、精神的ケア」や「文化教室・講演」の場として有効に利用することを要望しており、これらの生活スタイルを考慮した住環境整備の重要性が指摘できる。